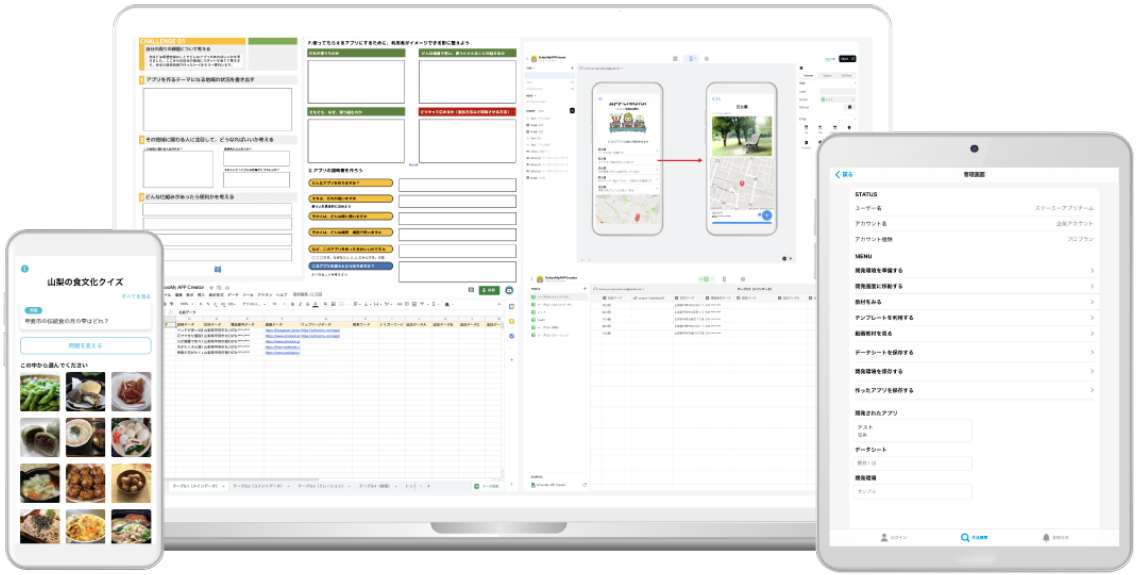
誰でも簡単にアプリ開発者になれる仕組み

スクーミーアプリクリエイター

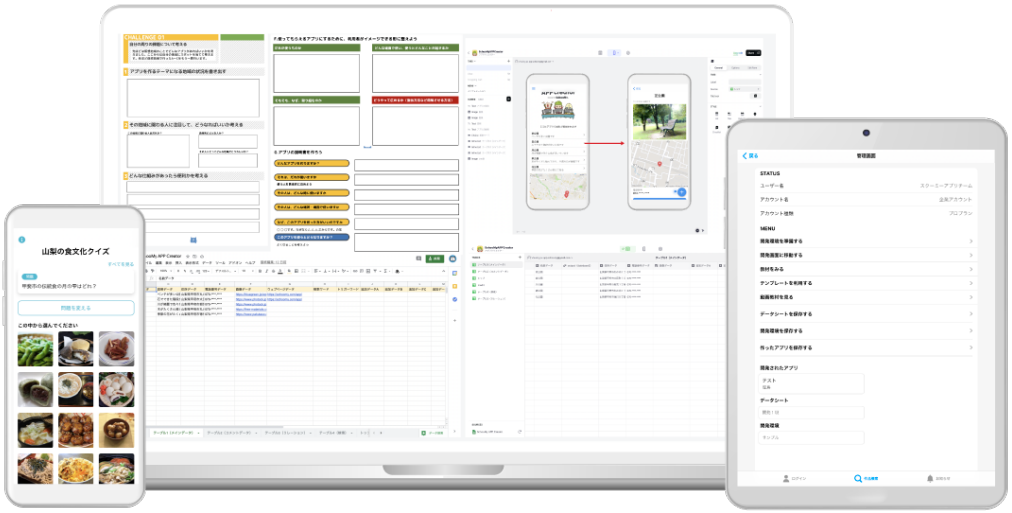
app creator
powered by SchoMy

紹介資料



1 誰でも簡単にアプリ開発者になれる仕組み「スクーミーアプリクリエイター」

自分が作りたいアプリを最短１０分で作ることができる



Google Sheets

Googleアカウントがあれば誰でも使うことのできるデータ入力システム

glide.

プログラミングの知識なしで、エクセルデータからアプリを作るサービスが作れるシステム

SchooMy®

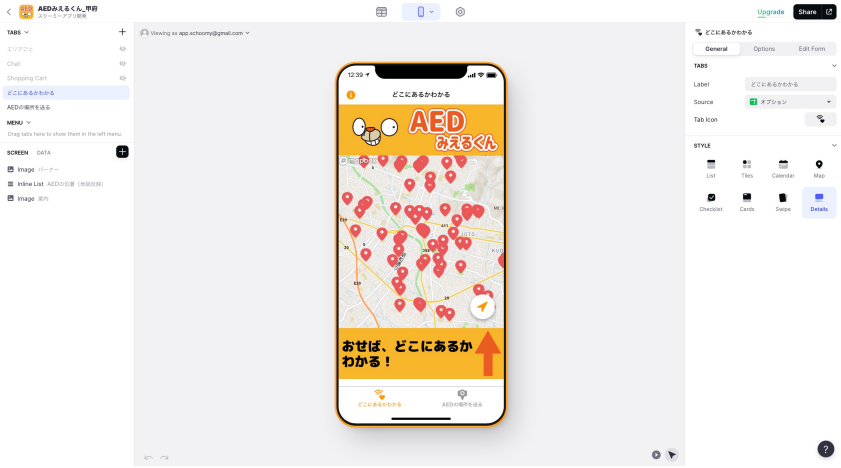
小学生でも使いやすいようなデザインと教材、簡単に作れるシステムの開発

Copyright © SchooMy Inc. All Rights Reserved.

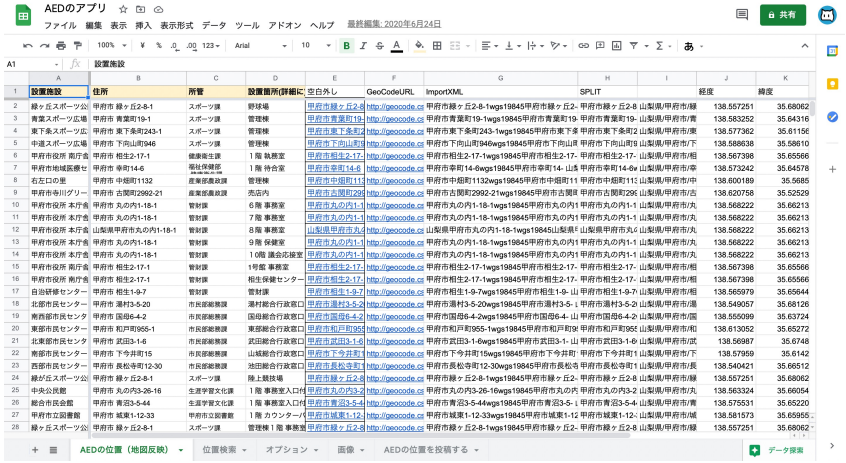
2 誰でも簡単にデータサイエンティスト・アプリ開発者になれる仕組み

自分が作りたいアプリを最短１０分で作ることができる

開発画面

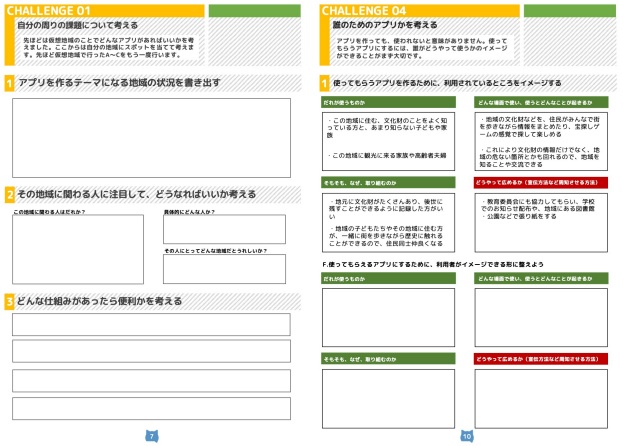


データベース



管理画面

教材



SchooMy®

Copyright © SchooMy Inc. All Rights Reserved.

3 活用事例）大学のオンライン授業での利用

大学でのオンライン授業活用

大学のオンライン授業としては、全国初のコロナ対策アプリの開発授業を山梨学院大学で１０講座を展開。地域の学生がコロナの影響により地域がどうなっていくかを考え、それを支援するためのアプリをアプリ開発未経験者の文系学生約８０名がチャレンジしました。アプリは１５個完成しました。

コロナ禍 お役立ちアプリ

観光地応援■持ち帰り注文

新型コロナウイルスの感染拡大により、大学教育にすっかり遠隔授業が定着した。ただ、画面越しのやりとりは制約も多く、学びの質の確保は大きな課題だ。そんな中、山梨学院大経営学部では、コロナ禍で役立つスマホアプリを学生自身で企画し、製作する授業が行われた。（清水誠勝）

山学大生 授業で製作

ソフト活用 未経験でも

「こんなに簡単にアプリが作れるなんて思わなかった」。県内の道の駅を総覧できる地図アプリ「道の駅MAP」を作成した3年生の保坂昌宏さん(20)は笑顔を見せた。アプリを開くと県内にある20の道の駅の場所が全て地図上に表示される。表示をタップすると写真や営業時間、駐車場の台数といった詳細な情報が確認できる。デザインから情報の入力まで、全ての作業を保坂さんを中心に5人の学生で製作した。

プログラミングはほぼ未経験。だが、「コロナで元気のない県内観光業の力になりたい」と思いついたアイデアを形にできたのは、プログラミング言語を使わなくても簡単にアプリを作れるソフトによるところが大きい。

このソフトは、プログラミング学習教材を開発する「スクーミー」（山梨市）が提供している。地域課題の解決を目指す「ソーシャルビジネス論」の授業を担当する今井久教授が、同社の塩島諒輔・代表取締役CEOに「コロナという大きな課題に特化した授業ができないか」と相談したのがきっかけだ。例年、授業はディスカッションが中心だが、遠隔授業でも指導しやすく、学生が主体的に学べると考えてアプリ製作を柱に据えることにした。

オンラインで受講する学生数は80人に上ったが、このソフトは、学生同士でチャットしたり、製作作業の進行状況や画像を講師と共有したりする機能も備える。今井教授と塩島さんの2人でグループごとに指導し、17のアプリが作られた。

観光地を紹介するものや、テイクアウトの食品を注文できるものなど、粗削りながらもコロナ対策につながるアプリが製作された。指導した今井教授は「自分の発想を形にするのは大したもの」と目を細める。

遠隔授業での指導だったが、「自宅にいても学生間で作業を分担でき、集中して課題に取り組める。授業時間外でもチャットで質問しやすい。オンラインのプラスの面が見えてきたのでは」と手応えを感じている。

学生たちが作成したアプリは、県のホームページで公開される予定だという。

作成したアプリ「道の駅MAP」を紹介する保坂さん

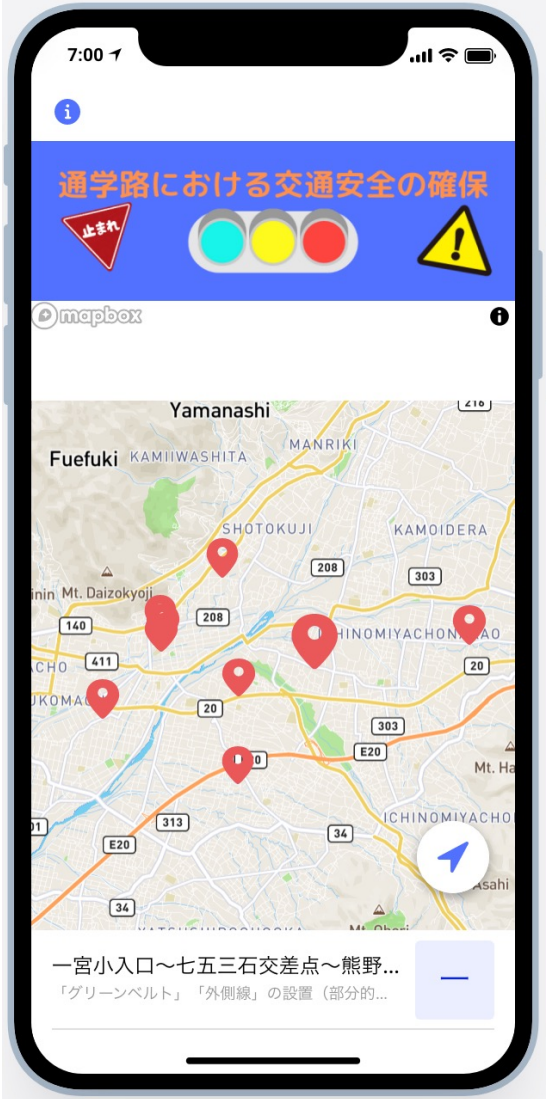
▲読売新聞

SchooMy®

Copyright © SchooMy Inc. All Rights Reserved.

4 アプリ事例）交通安全（事故発生箇所）

地域の危ないところを見える化し、意識する取り組み



SchooMy®

Copyright © SchooMy Inc. All Rights Reserved.

5 アプリ事例）防災（避難所）

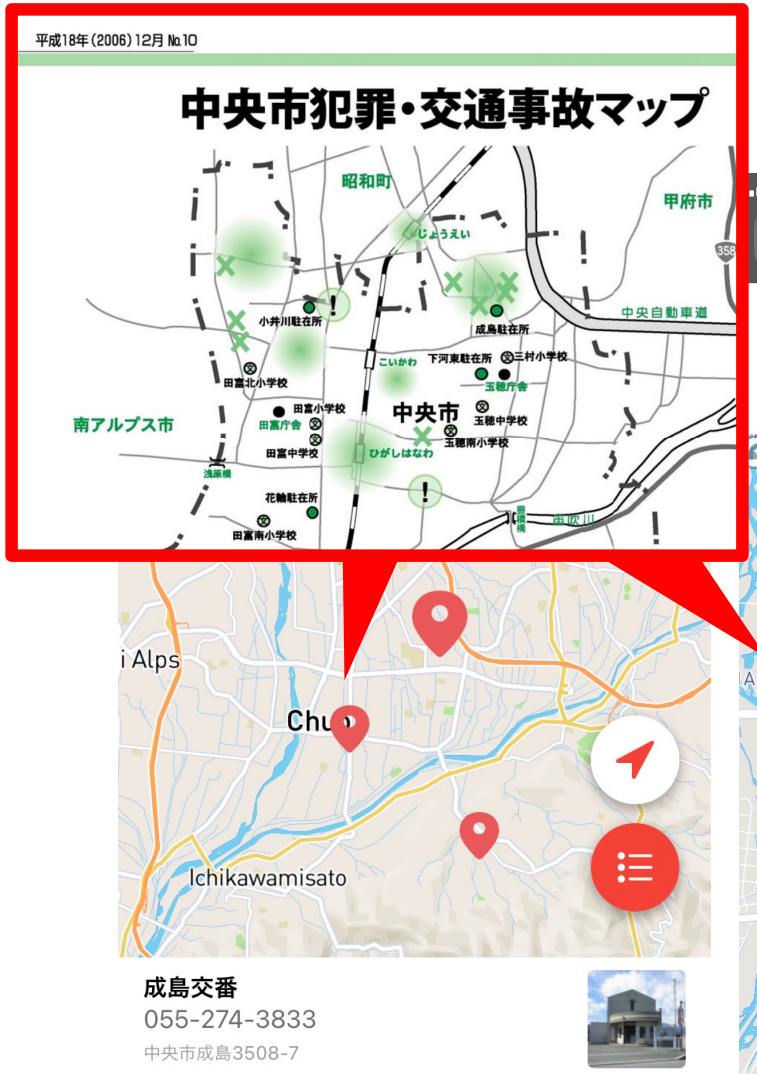
防災のことを学び、学んだことを活かしIT技術で防災装置を作る

ITを活用した新しい形の避難訓練

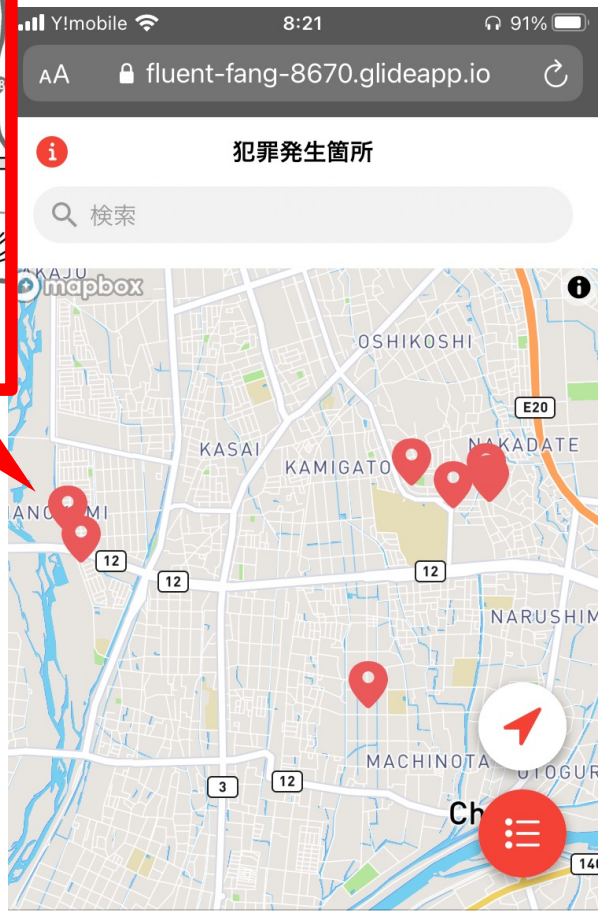
SchooMy®
Copyright © SchooMy Inc. All Rights Reserved.

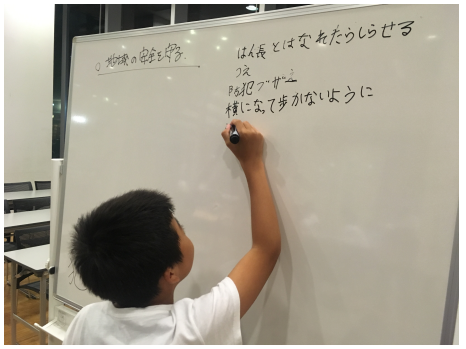
6 アプリ事例）防犯（犯罪発生箇所）

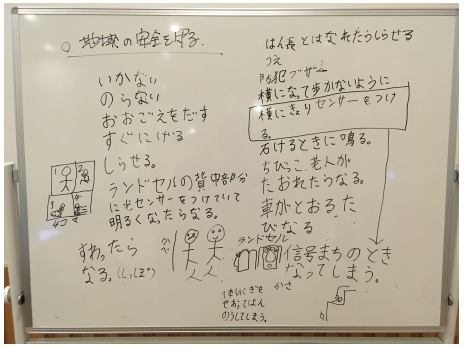
データによる防犯教育



２００６年の広報誌より







SchooMy®
Copyright © SchooMy Inc. All Rights Reserved.

7 アプリ事例）観光利用

大分県別府温泉周辺のコロナ対策アプリの開発を支援

（第3種郵便物認可）　大分

プレミアム付き商品券、GoToクーポン取扱店

アプリで一覧表示

新型コロナ

別府「ドゥアー」が開発

【別府】別府市の一般社団法人「ドゥアー」（今村正治代表）は、プレミアム付き商品券やクーポン券の取扱店を一覧表示するウェブアプリを開発した。実施主体が異なる複数のキャンペーン事業をまとめて表示できる。消費者、事業者双方の利便性を高めて地域経済の循環を後押しする狙い。

クーポン取扱店の一覧を表示したウェブアプリのページ＝別府市

公表されている取扱店の基礎情報を使って、GoTo関連の「地域共通クーポン」と「イート」の約650店を載せた。12月4日に販売を始める別府市の「みんなにエール券」（プレミアム率30％）でも、事業者が簡単な操作で表示できるようにする。

事業主はアプリにアクセスしてメールアドレスを登録すれば無料で店舗情報を充実させられる。メニュー表示やテークアウトの有無、定休日が示せる。消費者は検索機能を使って目的の店が取扱店か確認したり、店の所在地を探すことができる。

ウェブアプリにアクセスできるQRコード

地域経済の循環後押し

ここ数週間の全国的な新型コロナウイルス感染拡大で国は事業の見直しなどに言及するなど、事業主は感染状況に応じた対応が求められている。アプリでは、表示した営業時間などは何度でも変更でき、新型コロナ対策の取り組み状況も13項目まで公表できる。

コロナ禍による経済の低迷が続く中で、行政や経済団体は消費喚起や生活支援を目的とした支援事業を相次いで打ち出している。その一方でキャンペーンが同時展開され、消費者の分かりづらさを招いている面もある。

内田匡彦理事（37）は「簡単にアクセスできて、一覧性の高いアプリを開発すれば社会貢献になると考えた。せっかくのクーポンは有効に使って地域経済の底上げにつなげたい。多くの人に使ってもらいたい」と話した。（江藤嘉寿）

メモ　団体名の「ドゥアー（Doer）」は「行動する人」の意。ウェブアプリの名称は「With BE OTA」。アプリは他の市町村版も作れる。問い合わせはbeppu.doer.2020@gmail.com

SchooMy®

Copyright © SchooMy Inc. All Rights Reserved.

8 アプリ事例）防災の取り組み

九州の大雨災害時に災害情報を発信するアプリを開発

九州の大雨災害時に、災害情報を発信するアプリを山梨県の高校生が開発し、SNSで拡散。約１時間程度で、九州地域の2000人程度が利用しました。
各県ごとの避難場所・川の水位・交通規制などなどの情報をまとめた仕組みです。オンラインで現地の方と、関東のこどもたちが協力して開発されたものです。入力されたものを見やすく表示することのできる仕組みを活用しており、どんな情報が必要か、どうデザインされているとわかりやすいか、どうやって活用してもらうかを、スクーミーを活用しデザインしわずか１時間で開発しました。

県名	名称	情報更新日	募集範囲	内容	準備	申込・受付	FAX	住所など	その他	電話番号	詳細ページ	Facebook	Twitter	LIN
熊本県	芦北・津奈木広域災害ボランティアセンター	7/10	熊本県内在住の方のみ	住居の片付け、泥の除去など		事前にFaxで申込み「災害ボランティアの事前受付を開始します」参照	0966-83-8336	芦北町大字田浦653		0966-83-8335	http://www.ashikita-shakyo.com/	https://www.facebook.com/110681237261069/		
熊本県	あさぎり町災害ボランティアセンター	7/10	あさぎり町内在住で、中学生以上の方 7/7～7/19の予定	住居内及び床下の汚泥・土砂除去、家財廃棄	軍手、作業用ゴム手袋、帽子(キャップ型)、雨具(カッパ、レインコート)、マスク、作業用ゴーグル、作業着(長袖、長ズボン)、保険証コピー、ゴム長靴、踏み抜き防止の中敷き、飲料水2ℓ程度、スコップ、移植ゴテ、ヘルメット	当日9:30-12:30にあさぎり町農村女性の家（免田総合グラウンド隣）集合					080-9245-4064	https://asagiri-shakyo.or.jp/			
熊本県	八代市災害ボランティアセンター	7/10	（拠点立ち上げの準備中）県内のみから募集の予定								http://www.yatsushiro-shakyo.jp/homepage_new/saigai_vc.html	https://www.facebook.com/yatsushiroshakyo/	https://twitter.com/yatsu46shakyo	
熊本県	人吉市災害ボランティアセンター 球磨村災害ボランティアセンター （共同開設）	7/10	熊本県内在住の方のみ、中学生は保護者同伴	住居内の片付け・汚泥除去、家財等の屋外への運び出し	熱中症・コロナウイルス対策を万全に事前にボランティア活動保険に加入 マスク・長靴・汚れてもいい服(長袖・長ズボン)、飲料・食事 その他の装備は水害ボランティア作業マニュアル参照	当日9:00-11:00に現地受付		人吉市蟹作町1531-1 東間コミュニティセンター		090-5731-9259	http://www.hitoyoshi-shakyo.com/	https://www.facebook.com/%E4%BA%BA%E5%90%89%E5%B8%82%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E7%A6%8F%E7%A5%89%E5%8D%94%E8%AD%B0%E4%BC%9A-110459656979313/		
熊本県	多良木町災害ボランティアセンター	7/10	多良木町内在住で高校生以上の方	住居内及び床下の汚泥・土砂除去、家財の廃棄など	事前にボランティア活動保険に加入	事前登録者に活動依頼の連絡が来る		多良木町大字多良木1571-1		080-6438-6349	http://taragi-shakyo.or.jp/			
熊本県	相良村災害ボランティアセンター	7/10	県内の方のみ	汚泥除去、家財搬出等	帽子、ヘルメット、ゴーグル、防塵マスク、長袖、長ズボン、厚手で長めのゴム手袋、長靴、名札、ウェストポーチやディパック	当日9:00-11:00に現地受付		相良村大字深水2500-1		0966-35-0093		https://www.facebook.com/vill.sagara		
熊本県	錦町災害ボランティアセンター	7/10	錦町内在住の方のみ					錦町大字一武1587		0966-38-2074		https://www.facebook.com/town.nishiki		

SchooMy®
Copyright © SchooMy Inc. All Rights Reserved.

9 アプリ事例）地域課題解決

山梨県のテイクアウト事業の支援

山梨県のテイクアウト事業を支援するために、県内の小学生から高校生の４人チーム体制でオンラインでアプリ『TAKEOUT YAMANASHI』を開発。開発期間わずか２日で開発しました。
また、お店のテイクアウトを支援するアプリを、誰もが簡単にすぐ作ることのできるシステム『TAKEOUT PACK』を、自分たちの開発経験を生かして、山梨県の小学生から高校生の４人チーム体制でオンラインで開発し、全国の自治体に無償提供しました。全国の地域で、それを活用してアプリが作られ、約５０箇所くらいで利用されました。

▽朝日新聞

持ち帰り飲食店 アプリで応援

県内小中高生4人が開発

▽フジテレビ（めざましテレビ）

▽山梨中央銀行

▽UTY

SchooMy®
Copyright © SchooMy Inc. All Rights Reserved.

10 アプリ事例）地域課題解決

地域クーポン活用の推進

地域のクーポンの利用をスムーズに行うためのアプリを開発しアプリの無償提供を開始し、誰もが簡単にすぐ作ることのできるシステム「coupon yamanashi」を開発し、山梨県内のクーポン利用の推進をアプリで行いました。また全国の自治体向けに、「coupon PACK」を開発し、 無償提供。全国で約５０箇所くらいで使われました。

▽山梨日日新聞

商品券の利用店 検索軽々

県内小中生3人アプリ開発

見づらい一覧「便利に」

▽韮崎市との連携

SchooMy®

Copyright © SchooMy Inc. All Rights Reserved.

11 アプリ事例）コロナ対策

小学生がコロナ対策の仕組みを開発

コロナ休校の影響を受けて、経済産業省が実施した『学びを止めない未来の教室』でオンライン教育「スクーミーオンライン」をサービスを提供。オンライン授業の無償化で約１０００人くらいの子供たちの学びをサポートしました。その中でも、特に、学校の課題を解決する仕組みを作りました。子どもたちが休校中の教員とのコミュニケーションを取るためのアプリを開発し、全国の教育機関でも利用されました。

▽読売新聞

コロナ対策 児童が開発

新型コロナウイルスの感染拡大、学校の臨時休校、ステイホーム――。窮屈な日々を送る中、「必要は発明の母」とばかりにアイデアを形にする子どもたちがいる。武器は、今年度から小学校で必修化される「プログラミング」だ。（清水誠勝）

自動噴霧器＋質問アプリ

プログラミング

甲府市立玉諸小6年の広瀬永斗君（11）は母と買い物に出かけたスーパーで考えた。入り口にある消毒液のスプレー容器のことを。大勢の人が使うものを触るのは……。「直接触れずに消毒できる装置を作ってみよう」

プログラミング学習教材を販売する「ライカーズアカデミア」（山梨市）で学んでいる広瀬君は、同社のソフト「SchooMy（スクーミー）」を使って障害物に反応するセンサーとモーターのプログラミングに挑戦した。100円ショップで買った針金やストローをスプレー容器に取り付け、手をかざせば消毒液が噴き出す自動噴霧器を約1週間かけて完成させた。

同小に寄付した装置は教室前の廊下に置かれ、児童たちが利用している。担任の武藤菜那教諭（24）は「休校が続く中、世の中に必要とされるものを自作した姿勢が素晴らしい」と褒める。

広瀬君は「たまに動かなくなるなど不具合も多い。アップデートが必要」と本職のエンジニアばりに考えを巡らせている。

同じく同社の教材でプログラミングを学ぶ笛吹市の小6、宗橋愛子さん（11）は休校中、山のような宿題に苦戦していた。習っていないところも多く、「先生にもう少し気軽に質問できるアプリがあれば」と思い立った。キーボードをたたき、2日で作ったのはアプリ「みんなのQ&A掲示板」。パソコンやスマートフォンからアクセスし、先生にアドバイスを投稿してもらう仕組みだ。写真や動画も投稿できるよう改良を試みる。「これを機にいろんなアプリを作ってみたい」と意気込む。

同社はオンライン上で質問に応じ、プログラミング塾の役割も担う。代表取締役CEOの塩島謙輔さん（27）は「こんなものを作ってみたい」という発想を具現化できる楽しさを知ることが大切」と語る。児童が使うソフトは、プログラミング言語を簡単に使えるよう設計されている。「本格的なプログラミングを学ぶのは数年後でいい」と言う。

同社の教材を活用する児童生徒は、テイクアウトに対応した飲食店の情報アプリや、人が2m以内に近づくと警報を鳴らして距離を確保させる装置なども開発。塩島さんは「コロナ対策に限らず、学びを社会に生かす取り組みを支援したい」と話している。

必修化されたプログラミング教育について文部科学省は、プログラミング技能の習得よりも、コンピューターに意図する動きをさせるために筋道立てて論理的に考える「プログラミング的思考」を養うことに重きを置く。

必修化を受け、県内では学期に2時間程度といったカリキュラムを各小学校が組んでいる。県教育委員会義務教育課の担当者は「休校で授業時間は圧迫されているが、問題解決力や主体的な学びを養うため、着実に導入を進めたい」と話している。

開発したアプリを紹介する宗橋さん

運動不足で体力低下3割 コロナ影響調査

新型コロナウイルスの影響について、健康作りに取り組む甲府市の市民団体「甲府健康友の会」が会員に行った調査で、3人に1人が運動不足で体力が落をやめた・控えた」が最多の49%で、「マスクを入手できない」40%と続いた。「運動不足で体力が落ちた」は34%に上った。

一方、健康維持のためにして

SchooMy®

Copyright © SchooMy Inc. All Rights Reserved.

12 アプリ事例）伝統文化

伝統産業の後継者育成

山梨県市川三郷町の伝統文化である手すき和紙の技術を動画で保存し、それを活用した動画教材システムの開発を行いました。後継者育成、展示会での宣伝で利用される仕組みです。

▽山梨日日新聞

山梨日日新聞

（第三種郵便物認可）

手すき技 動画で残す

市川和紙の伝統 後世へ

市川和紙工業協同組合（一瀬清治理事長）は、市川和紙伝統の手すきの技法を撮影した動画を制作している。後継者が減る中、解説を付けて細かな作業映像を残すことで、技術を後世に伝えるのが狙い。来年1月ごろに町ホームページなどでの公開を目指す。

峡南

手塚美菜子
小林 諒一
(0556)22-5431、5432
FAX 22-1797

紙すきの様子を動画に収めるスタッフ＝市川三郷町の「市川手漉き和紙 夢工房」

解説付け細かな作業も撮影

同組合によると、市川三郷町の手すき和紙職人は、最盛期の昭和20年代ごろには約300人いたが、現在は「やまなしの名工」の豊川秀雄さんただ1人。伝統を受け継ごうと、2人が豊川さんから技術を学んでいるが、後継者不足が深刻なため、組合は豊川さんの技術を映像で記録し、後世に残すことにした。

町が協力し県の「ブランドプロモーション支援事業費補助金」を活用して、子ども向けの教材開発を行う「ライカーズアカデミー」に制作を依頼。10月下旬に、市川三郷町の「市川手漉き和紙 夢工房」で、豊川さんが紙をすいたり乾燥させたりする様子を撮影した。

このほか材料となるミツマタを煮て、節やごみを取り除く作業など細かな点も記録。作業の解説などをテロップで付けている。動画は約20分程度。3分程度の短縮版も制作している。

動画は、来年1月ごろ町ホームページや動画投稿サイト「ユーチューブ」で公開する。豊川さんは「自分も親父の背中を見て技術を覚えた。こうして映像として技術が残ることはありがたい」と言い、「子どもたちが興味を持つきっかけになれば」と話していた。

災害時支援協力 5者が協定締結

鰍沢署と市川建設業
峡南消防本部、市川三
土川両町の5者は、災
支援協力する協定を結
災害発生時に情報共
速で円滑な人命救助を
11月中旬に市川三郷町
同協会で、本田誠一署
会の砂田武士会長ら5
定書に調印した＝写真
砂田会長は「万が一
は重機を使い、被害を

県境トンネルで事故想定し訓練

中日本高速道路

中日本高速道路などは
梨と静岡県境の中部横
車道樽峠トンネルで、
故の発生を想定した防
を行った＝写真。

Copyright © SchooMy Inc. All Rights Reserved.

13 アプリ事例）学校の課題解決

大学図書館の活性化

株式会社丸善雄松堂とコラボして、SDGsの本をゲーム感覚で紹介するBOOKGACHAアプリの開発をしました。

- スクーミー社（外部仕入先）と当社事業部メンバーにより、無償のアプリ制作ツール「Google Glide」を用いてWebアプリの企画・開発
- アプリ公開後のアクセス件数は1,128件（11月20日時点）。当社営業担当者経由で、本アプリを活用した自館での展開に関し、複数の問い合せを受けており、営業機会創出に寄与しています。

利用者の声
・読書離れが起きている中でゲーム感覚で読書と学生がつながる機会になれば…
・自学・自館におけるSDGsの取組みのヒントとしたい
・調べ学習用資料などを紹介するGACHAがあれば、資料探しに悩む生徒の一助になるのでは…

MARUZEN-YUSHODO

Copyright © SchooMy Inc. All Rights Reserved.

14 アプリ事例）研修会での利用・DX推進での活用

企業研修・県庁職員研修

山梨県のデジタル県庁推進室の職員向けにDX（デジタルトランスフォーメーション）関連の研修を行いました。自分たちの身近な課題を自分たちのスキルでITを活用しながら解決することができるということを知る研修でもあり、アプリキットを活用して実際にアプリを作る研修を行いました。
その後、山梨県情報政策課と連携し、市町村自治体向けの職員研修などを行い利用が進んでおります。

SchooMy®
Copyright © SchooMy Inc. All Rights Reserved.